

志布志港での取り組み

- 1) 農水産物の小口混載輸出スキーム構築
- 2) 志布志港をもりあげる会

ECUワールドワイド株式会社 顧問 富高四郎
tomitaka@ecuworldwide.co.jp

自己紹介

経歴)

1986年志布志港開港となる年から東洋埠頭(株)志布志支店で港湾物流会社に勤務、倉庫営業、船舶代理店、通関士、管理職として従事しました。

2013年株式会社山下回漕店に移籍、〃社で代表取締役を7年勤め、顧問として2022年まで勤務、2023年イーキューワールドワイド株式会社顧問として従事しています。1958年生れ、現在64歳です。

志布志港のご紹介

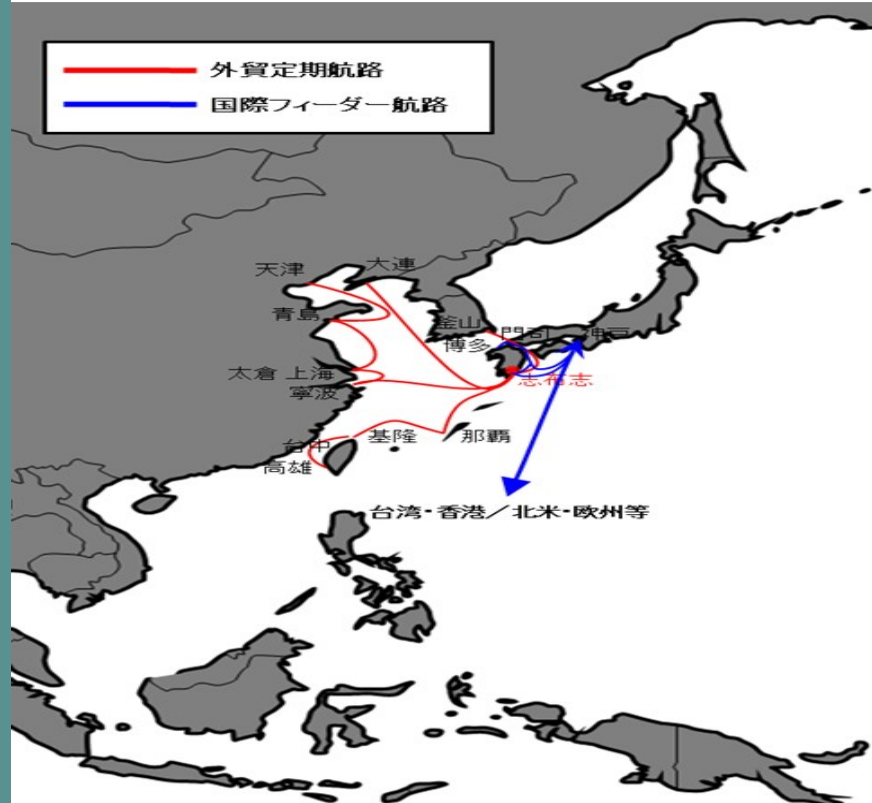
志布志港とは、どんな港？

港のPR動画をご覧ください

志布志港のコンテナ航路

九州地方整備局資料から

コンテナ定期航路



◆外貨コンテナ

航路名	運航会社	寄港頻度
台湾航路 週 1 便	愛媛オーシャンライン	1 便/週 (月曜)
韓国航路 週 4 便	NAM SUNG (南星海運)	1 便/週 (日曜)
	SINOKOR (長錦商船)	1 便/週 (木曜)
	KMTC (高麗海運)	1 便/週 (木曜)
	HEUNG A LINE (興亜LINE)	1 便/週 (月曜)
中国航路 週 2 便	神原汽船	1 便/週 (水曜)
		1 便/週 (木曜)

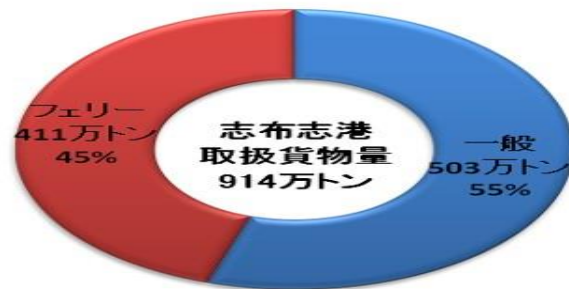
◆国際フィーダー

航路名	運航会社	寄港頻度
神戸トランシップ	井本商運/OOCL	1 便/週 (土曜)
		1 便/週 (土曜)

志布志港の貨物の動き 九州地方整備局資料より

貨物の内訳 (2020確定値)

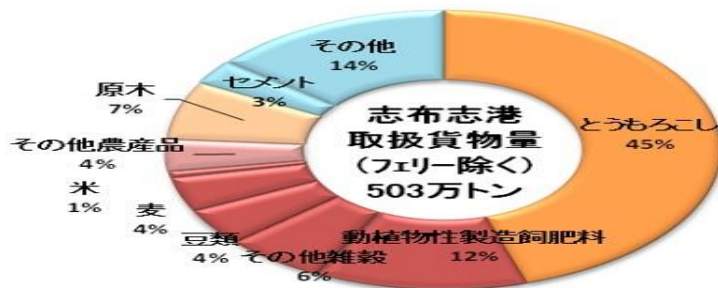
総取扱貨物量



フェリーを除く 取扱貨物量



フェリーを除く 取扱貨物の内訳



コンテナ貨物取扱量の推移



(出典) 港湾統計 (年報) データ
※端数処理により合計値が一致しない場合がある。

志布志港の活性化へ向けての課題（ソフト面）

- ・ 後背地の一次産業生産品（農畜産物、養殖水産物等）の生産数量は多い。国内主要都市への陸上輸送、フェリー輸送で加工工場へ出荷されています。
- ・ 地域で生産された付加価値のついた一部貨物も都市圏へ移送されている。
- ・ 海外市場へ輸出される小口の農水産物、その加工品も都市圏の港湾へ移送されている。
- ・ 志布志港から海外へ直接輸送できる仕組みが地域生産者の人へ周知されていない。
- ・ 地域生産者が貿易に積極的に携わっていない。
- ・ 地域の物流業者が一致した方向性で動いていない。

志布志港の抱える課題（港湾機能）

- ・ 輸入過多であり、1st寄港地としての航路上にあり、輸出に対してはどうしても不利である。
- ・ コンテナ航路は世界につながるが、小口混載輸送としてのスキームがなく、フルコンテナでの対応しかできなかった。
- ・ 農水産物に対応するリーファーコンテナの供給に不便である。
- ・ 志布志港特有の貨物（飼料関係）に応じた施設となっていないことから農水産食品対応型の倉庫がすくない。

今後の物流の課題

- ・トラックドライバー労働時間規制（2024年問題）の施行
- ・環境問題に対するCO2削減活動への取り組み
- ・燃料単価の高騰による運送業者への負担増加
- ・地方港湾における人手不足
- ・地方港湾のシステム化の遅れ

そこで港の活性化を考える協議

- ・ 志布志港の後背地に控える農水産物を志布志港を使って外へ出すスキームを構築しよう。
- ・ 志布志港に拠点を構える通関業者と度重なる検討会を開催。
- ・ 志布志港から、後背地の生産品を積み出ししていく目標は業者で意見が一致をしている。
- ・ 将来の物流の抱える問題に対処しよう。

小口混載輸送のスキームを開始した

- ・ 農水産物は、東南アジア特に香港・シンガポール、台湾のニーズが多く、ビジネスの最初から大口は少ない。
- ・ 小口輸送ができなければ、小口も含め大口も主要港へ流れて志布志港としては輸入過多で終わってしまう。
- ・ 生産地から主要港への国内ルートが固定化してしまうと地方港から輸出していく動きが失なわれていく。
- ・ 地域の生産者、メーカーさんの海外販路へ物流として支援できる。
- ・ 生産地から近い港湾を使うことにより、将来的な物流問題、物流費削減に対応できる。

国際複合輸送会社（NVOCC）
イーキューワールドワイド株式会社

www.ecuworldwide.co.jp

で志布志港からの小口混載サービスを開始した

- ・ドライ貨物であれば、志布志港から世界**160ヶ国**へ小口混載輸送を開始！（2022.5月～）
- ・冷凍貨物を志布志港から直接香港、シンガポール向けに小口混載輸送サービスを開始！（2022.07月～）

志布志港へ農水産物を集めること

- ・志布志港を農水産物輸出拠点とするためには、民間業者単独ではまずできない。
- ・地方港に拠点のある港湾業者も地域性から見て、今後の課題はどの業者も共通してかかえている。
- ・その課題を克服するために、港湾業者が参集して”志布志港をもりあげる会”を設立した。
- ・また、港湾は民間だけでは活性化できないことから行政も同じ目標の上で官民一体となり農水産物輸出促進協議会を設立し、現在活動中。

志布志港での冷凍小口混載作業風景（2022.09）



九州で博多港に次いで2例目としてプレスで紹介

9 経 済 2022年(令和4年)9月30日 金曜日 南 日 本 新



専用のリーファーコンテナに積み込まれる冷凍貨物
＝29日、志布志市の東洋埠頭志布志支店

志布志港 小口混載冷凍も輸出 九州2例目、あす第1便

国際バルク戦略港湾の志布志港(志布志市)で、小口混載の冷凍貨物の輸出取り扱いが始まった。九州では博多港に次ぎる港目。第1便は10月1日、神戸港経由でシンガポール向けに出港する。

農林水産品や食品の貨物は小口単位が多く、20リットルコンテナ1台を仕立てるのが難しい。このため志布志港では今年、小口混載貨物の輸出体制を官民連携で整備。イーキューワールドワイド(東京都)を輸送業者、山下回漕店は荷主が1

に、山下回漕店(志布志市)が現地代理店となった。

一般貨物は5月から取り扱いを開始。7月に冷凍貨物のサービスも始まり、今回初めて県特産品協会を荷主とする豚肉、トビウオのすり身、茶計81kg(1200g)の輸出が決まった。

29日に東洋埠頭志布志支店の冷凍倉庫で、冷却装置付きのリーファーコンテナに荷を積み、新若浜地区国際物流ターミナルのコンテナヤードに運搬した。

社となかなか荷が集められないが、その点も解消できる」と小口混載のメリットを説明。市港湾商工課は「志布志港を農林水産品の輸出拠点とする第一歩になる」と期待している。同課11099(472) 1111(永野雄一)

志布志港を農畜水産物輸出拠点として目指すべく、課題は多くありますが地方港活性化のため取り組んでいます。

ご清聴ありがとうございました。